

戦後80年 日出町歴史文化講演会 - 戦没者へのまなざし -

# 日出の戦没者と戦争遺産

日出町教育委員会社会教育課（文化財係）



# 戦没者へのまなざし

近代日本の戦没者（軍人・軍属）は日中戦争（支那事変、昭和 12 年）以降、太平洋戦争の終戦（昭和 20 年 9 月）までおよそ 230 万人にのぼり、うち 210 万人が海外で戦死（戦傷死・戦病死を含む）したとされています。それ以前の国内外の戦役（西南戦争、日清・日露戦争ほか）を加えると、その数は数万、十数万人とさらに膨らみます。

では、近代日本の戦争による日出（旧南端村・豊岡町・日出町・藤原村・川崎村・大神村）の戦没者はどれほどの数で、いつ、どこで命を落としたのでしょうか。日出町（旧町村含む）の『戦没者台帳（遺族名簿）』（昭和 53 年、昭和 27 年期）を手がかりに、その実相を探ってみます。

また、彼らの慰霊、追悼の地として靖国神社（東京都千代田区）、大分県下においては大分縣護國神社（大分市）が知られています。郷里においては日出の各地（旧町村）に建立された「忠魂碑（招魂碑）」がその役割を担ったほか、彼らを弔うための「墓」（以下「軍人墓」と呼称）が建立されました。戦前（一部は戦後）に営まれた忠魂碑、軍人墓の営み、そしてそこから彼らの戦死、葬送、慰霊の実相を探ってみます。

## 戦没者の定義

### 【戦没（者）】

■戦場で死ぬこと。戦死・戦傷死および戦病死の総称〔一者〕『広辞苑』

■＝戦死。（戦場で軍人・兵士が戦闘で死ぬこと）『国語大辞典』

### 【戦没者の範囲】

■支那事変以降の戦争に因る死没者（戦災死者等を含み、軍人軍属に限らない）

「全国戦没者追悼式の実施に関する件（昭和 27 年 4 月 8 日 閣議決定）」

### 【軍人・軍属】

#### 軍人

元の陸海軍の現役、予備役、補充兵役、国民兵役にあった者（軍人）

元の陸軍の見習士官、士官候補生、元の家軍候補生、見習尉官（準軍人）

元の陸海軍部内の警部、監獄看守長、高等文官、従軍文官等（文官）

#### 軍属

戦地勤務の陸海軍部内の雇員・よう人等、船舶運営会船員、満鉄職員等

#### 準軍属

国家総動員法関係者（被徴用者、動員学徒、女子挺身隊員）、戦闘参加者、

国民義勇隊員、満洲開拓青年義勇隊員（満洲青年移民）、義勇隊開拓団員、

特別未帰還者、内地等勤務の陸海軍部内の雇員・よう人等、防空従事者

「戦傷病者戦没者遺族等援護法」（昭和 27 年 4 月 1 日 閣議決定）

### 日本陸海軍の階級と主な役職（昭和十七年）

区 分	陸 軍	海 軍	主な役職（陸軍）	主な役職（海軍）
将 官	大 将		総司令官、参謀総長	連合艦隊司令長官
	中 将		軍司令官、師団長（2 個旅団）	艦隊司令長官
	少 将		旅団長（2 個連隊）	戦隊司令官、艦長（戦艦）
佐 官	大 佐		連隊長（3 個大隊）	隊司令、艦長（戦艦、空母、巡洋艦）
	中 佐			艦長（駆逐艦、潜水艦）
	少 佐		大隊長（3 個中隊）	小型艦艦長
尉 官	大 尉		中隊長（4 個小隊）	分隊長
	中 尉			航海士
	少 尉		小隊長（4 個分隊）	
准士官	准 尉	兵 曹 長		
下士官	曹 長	上等兵曹	分隊長	
	軍 曹	一等兵曹		
	伍 長	二等兵曹	班長	
兵	兵 長	水 兵 長		
	上 等 兵	上等水兵		
	一 等 兵	一等水兵		
	二 等 兵	二等水兵		







# 日本の戦没者数

注) 浜井和史著

『海外戦没者の戦後史 遺骨収集と慰霊』  
(2014年/吉川弘文館) より引用・作成

戦没者数	全戦没者数	3 1 0 万人 (軍人・軍属：2 3 0 万人)
	海外戦没者数	2 4 0 万人 (軍人・軍属：2 1 0 万人)
海外 戦没者 の遺骨数	送還済	1 2 7 万柱
	(「遺骨収集(帰還)」事業による送還数)	(3 3 万柱)
	千鳥ヶ淵戦没者墓苑納骨数	3 6 万柱
	未帰還	1 1 3 万柱
	海没による収容困難	3 0 万柱
	相手国の事情による収容困難	2 3 万柱
	収容可能 (推計)	6 0 万柱

★昭和12 (1937) 年7月盧溝橋事件から昭和20 (1945) 年9月降伏文書調印まで

## 日出の戦没者数

★日清・日露戦争以降の戦没者数

資料名	総数	内訳【地区 (旧町村) 別】						
		南満	支那	日出	樺太	川崎	大津	不明
『戦没者遺族台帳』	760	98	200	—	106	111	245	
■『戦没者遺族台帳 南満村』(昭和27年2月)	[明 治]	8	0	0	—	0	1	7
■『戦没者遺族台帳』(豊岡町)	[大 正]	3	0	1	—	0	2	0
■『(川崎村戦没者遺族台帳)』	[昭 和] (S20.8以前)	695	94	181	—	99	101	220
■『遺族台帳』(藤原村)	[昭 和] (S20.9以降)	48	3	13	—	7	7	18
■『戦没者名簿 大津村』(昭和27年)	[不 明]	6	1	5	—	0	0	0

(注) 上記資料は日出町歴史資料館蔵  
(注) 旧日出町の台帳は未確認

資料名	総数	内訳【地区 (旧町村) 別】						
		南満	支那	日出	樺太	川崎	大津	不明
『戦没軍人軍属遺族名簿』	717	29	124	136	107	105	216	
■日出町編	[明 治]	21	0	2	2	5	2	10
■昭和53年5月時点	[大 正]	3	0	0	1	1	0	1
	[昭 和] (S20.8以前)	578	24	104	108	84	82	176
	[昭 和] (S20.9以降)	50	2	12	8	10	8	10
	[不 明]	65	3	6	17	7	13	19

名称	総数	内訳【地区 (旧町村) 別】						
		南満	支那	日出	樺太	川崎	大津	不明
『大分県護国神社祭神名簿』	621	17	91	97	90	86	161	79
■大分県護国神社提供	[明 治]	10	0	0	1	2	0	6
	[大 正]	0	0	0	0	0	0	0
	[昭 和] (S20.8以前)	559	15	85	89	81	73	150
	[昭 和] (S20.9以降)	51	1	6	7	7	13	5
	[不 明]	1	1	0	0	0	0	—

名称	総数	内訳【地区 (旧町村) 別】						
		南満	支那	日出	樺太	川崎	大津	不明
忠魂碑 (慰霊碑)	748	0	134	132	120	119	243	
■南満「旅忠千載碑」 (—) ■豊岡「忠魂英霊碑」 (芳名碑) ■日出「陸海軍人戦死碑」 (芳名碑) ■藤原「殉国招魂碑」 (芳名碑) ■川崎「忠勇道範」 (芳名板) ■大津「忠魂碑」 (芳名板) ※芳名碑・芳名板は、 昭和30年代に製作 (忠魂碑の建立年代と異なる)	[明 治]	39	0	7	10	3	3	16
	[大 正]	2	0	0	1	0	1	0
	[昭 和] (S20.8以前)	629	0	118	113	56	115	227
	[昭 和] (S20.9以降)	17	0	9	8	0		
	[不 明]	61	0	0	0	61	0	0

☞戦没者の数がそれぞれ異なる様子が浮かび上がってきた

## 日出の戦没者数の推移

■『戦没者台帳』の戦没者数に、  
「靖国神社」の史料 (『靖国神社忠魂史』ほか)、  
「大分県護国神社」の史料 (『西南の役百年祭しおり』ほか)、  
「その他」の近代史料 (国立国会図書館ほか) などから、  
明治・大正期の戦没者 (数) の洗い出し  
日出の『戦没者台帳』に示される戦没者数に加算

☞戦没者の総数は、  
**900 名以上、1,000 名に及ぶ規模**

☞戦没者数のピークの推移は、  
**西南戦争 日露戦争 太平洋戦争末期**



# II 戦没者の分布

日本の戦没者の戦没地

地 域	戦没者概数
硫黄島	21,900
沖縄	186,500
中部太平洋	247,000
フィリピン	518,000
タイ、マレーシア等	21,000
ミャンマー	137,000
インド	30,000
北ボルネオ	12,000
インドネシア	31,400
西イリアン	53,000
東部ニューギニア	127,600
ビスマルク・ソロモン諸島	118,700
中国東北部（ノモンハンを含む）	245,400
中国本土	465,700
アリューシャン（樺太、千島含む）	24,400
ロシア（旧ソ連、モンゴルを含む）	54,400
その他（韓国、北朝鮮、台湾、ベトナム、カンボジアラオス他）	107,800
合 計	2,401,800

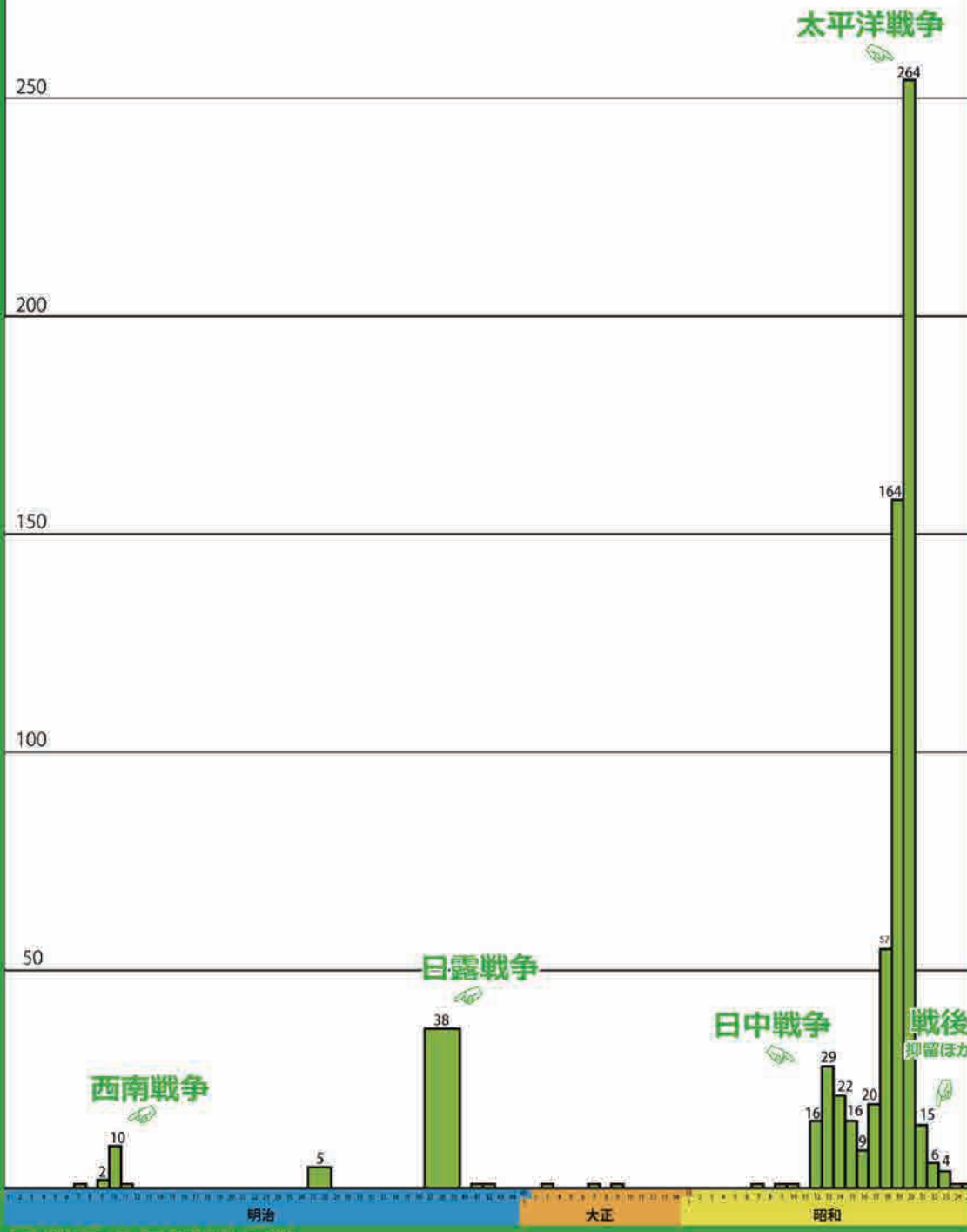
注) 昭和12 (1937) 年7月の盧溝橋事件から昭和20 (1945) 年9月の降伏文書調印まで  
 注) 浜井和史著『海外戦没者の戦後史 遺骨帰還と慰霊』（歴史文化ライブラリ377/2014年/吉川弘文館）より引用・作成

## ㊦ 日出の戦没者の分布

■『I 戦没者の数－㊦戦没者の推移』を踏まえ  
 日出の『戦没者台帳』にみる「死亡年月日」「死亡場所」から  
 戦没者が命を落とした戦争、戦没地を特定、  
 戦没者の戦没地を地図上にマーキング（戦争別に区分）

㊦ 戦没者の多くが、  
 日本から遠く離れた国外で戦闘・戦傷・戦病死  
 ー中国、東南アジア、南・東太平洋、ソ連（ロシア）などー

㊦ 日出の戦没者の分布は、近代日本の戦争の縮図



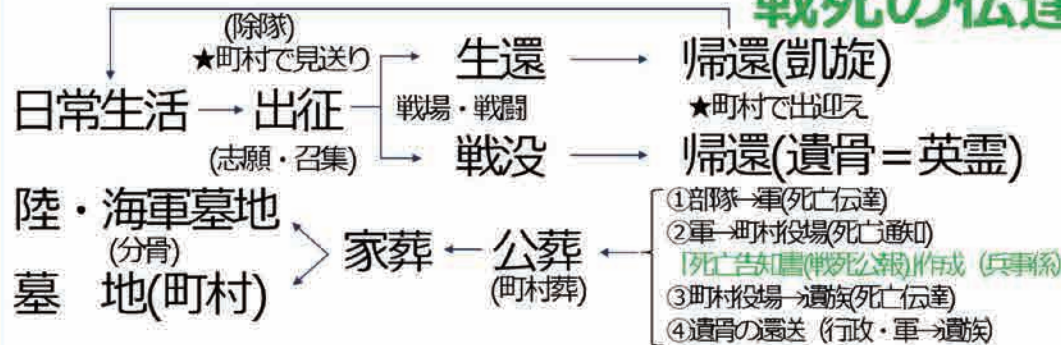
近代日出の戦没者数 (注) 『戦没者人名録』(昭和53年3月、日出町編)の戦没者数に、諸史料から明治・大正期を補正して作成







## 戦死の伝達



日出町葬の様子(昭和)

## 戦場でのルール

### 『戦場掃除及戦死者埋葬規則』(明治37年)

- 戦闘終了後、掃除隊を編成して戦死者の搜索、遺留品の処理
- 自国・敵国問わず、戦死者を丁重に取り扱う
- 戦死者は火葬、敵方は土葬(伝染病流行時は火葬)
- 遺骨は内地に還送(場合により遺髪(遺髪)の還送、遺骨の仮葬可)
- 戦死者の階級に応じた葬送の儀式
  - ※ 部隊に神官・僧侶・教師、他の教法家あれば会葬
- 地方人民の遺体は敵国と同じく取り扱う
- 遺留品中私有物は遺骨・遺髪と共に留守部隊へ送付
  - ※ 敵国・地方人民ともに適切に取り扱う

## 戦没者の慰霊地-忠魂碑(招魂碑)-

### 戦没者の慰霊の地

#### 靖国神社(東京)

- 明治2年創建(招魂社)
- 戊辰戦争の戦没者(官軍、幕末の尊皇攘夷の志士)約3,500余柱の慰霊...



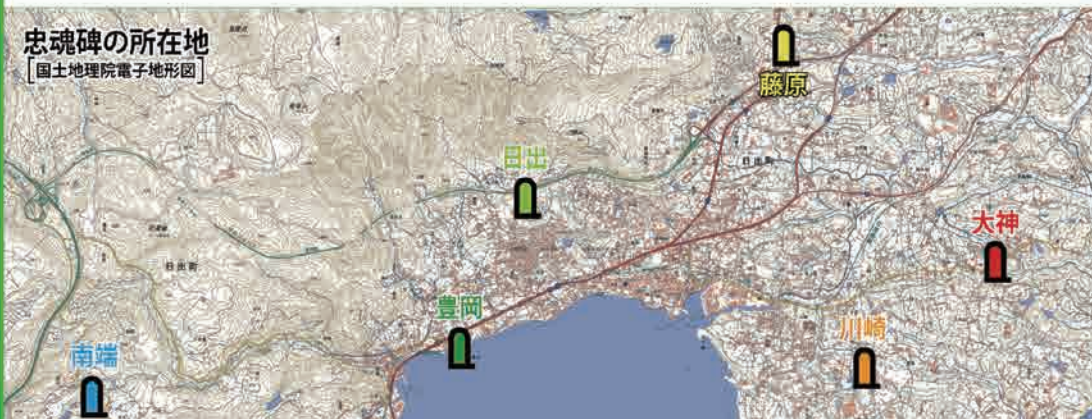
#### 大分県護国神社(大分)

- 明治8年創建(招魂社)
- 佐賀の乱14柱、台湾出兵3柱、蛤御門の変5柱の戦没者の慰霊...



### 郷里の慰霊の地 ≡「忠魂碑(招魂碑)」

- 国事に殉じた人々(戦没者)を祀る石碑(慰霊碑)
  - ・ 忠魂碑? or 招魂碑? ≡ 建立当初は「招魂碑」、やがて「忠魂碑」へ
- 日出の旧町村にそれぞれに建立された(主に明治期)
- 町村主催で「招魂祭」(慰霊の儀式)が執り行われた
  - ・ 毎年4月下旬～5月上旬期、仏式或いは神式にて挙行





## 忠魂碑（旧南端村）

【構造・形式】石造（安山岩質）、尖頭四角柱（碑身）  
 【碑文】正面 旌忠千載碑  
 左側面 第十二師團長 磯村 年書  
 背面 大正十三年十月  
 右側面 南端郷中  
 【備考】現在地は移転地



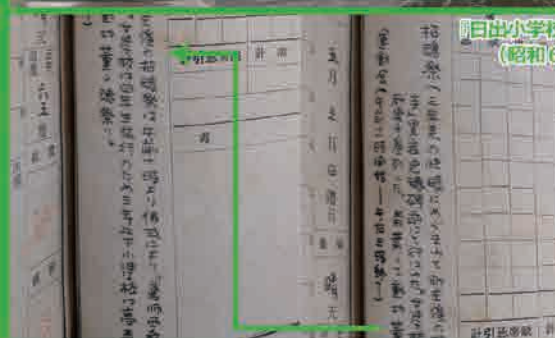
## 忠魂碑（旧日出町）

【構造・形式】石造（安山岩質）、野面石（碑身）  
 【碑文】正面 陸海軍戦死碑  
 左側面 明治三十二年三月  
 右側面 陸軍中將四位勲二等田村寛一書  
 【備考】周囲に戦没者石柱群（昭和35年10月建立※一部除く）



## 忠魂碑（旧川崎村）

【構造・形式】石造（安山岩質）、尖頭三角柱（碑身）、安山岩質  
 【碑文】正面 忠勇遺範  
 左側面 陸軍中將四位勲二等男爵茨城維昭書  
 右側面 明治三十四年十月建立  
 【備考】昭和33年4月、台石正面に戦没者銘板（銅製）設置



## 忠魂碑（旧豊岡町）

【構造・形式】石造（安山岩質）、尖頭四角柱（碑身）  
 【碑文】正面 忠魂英霊碑  
 文学博士井上圓了謹書  
 左側面 明治四十一年四月二日建之  
 背面 本石材八富町西長谷ノ産ニシテ  
 同地所有者津嶋組之ヲ寄附セルモノ也  
 【備考】傍らに日露戦役戦病死者碑（明治41年4月建立）、  
 戦没者石柱群（昭和35年5月建立）



## 忠魂碑（旧藤原村）

【構造・形式】石造（安山岩質）、尖頭四角柱（碑身）  
 【碑文】正面 殉国招魂碑  
 背面 明治三十年五月之建 藤原村  
 【備考】背後に戦没者石柱群



## 忠魂碑（旧大神村）

【構造・形式】石造（安山岩質）野面石（碑身）  
 【碑文】正面 忠魂碑  
 靖国神社宮司筑波藤麿  
 昭和31年3月  
 【備考】昭和32年2月、台石左側面に戦没者銘板（銅製）設置  
 再建（前身の忠魂碑は不詳）



# IV 戦没者の慰霊地 - 軍人墓 -

## 軍人墓の分布

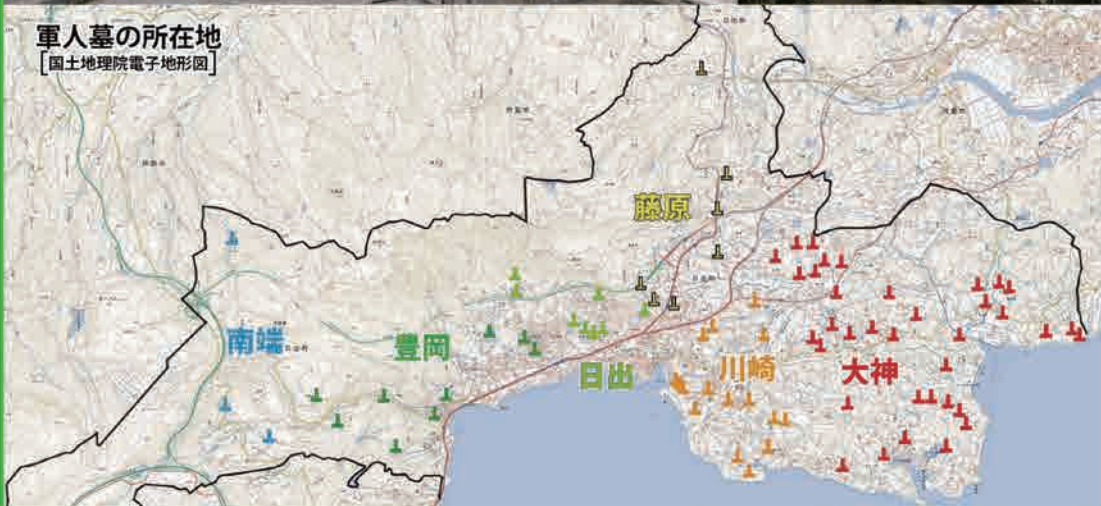
墓地の数≒およそ 80ヶ所（令和7年6月現在）

■ 日出の各地（旧町村）に広く営まれる

共同墓地（集落・一族単位）や寺院墓地、個人墓地（屋敷地近隣）など

墓の数≒およそ 250基（令和7年6月現在）

■ 多くが個人墓として営まれる（合葬の事例もあり）





# 軍人墓の特徴

## 【墓碑の形】

碑身は尖頭四角柱が主体※神道墓も同じ特徴

※但し日露戦争以前は様々（墓？慰霊碑？）

自然石、尖頭四角柱、尖頭三角柱、頭部櫛型四角柱、頭部兜型四角柱

台石（数段）+ 水鉢 + 花入※附基台・石積

## 【墓碑の銘文】

【正面】戦没者名－所属 官位 勲功 氏名－

※この時、側面に戦没者戒名（仏式）

（正面が戦没者戒名の場合、側面に戦没者名）

【側面】生前の経歴・軍歴（戦歴）、戦没年月日

※碑文の「撰」「書」：戦没者の所属部隊の統括将校、同郷の将校、郷里の寺院住持（神職）、郷里の教職員、親族

## 戦没軍人通有の戒名（≒戦時戒名）

■日露戦争・シベリア出兵期に少数、日中戦争期以降に複数確認

忠征院 忠誠院 盡勇院 盡忠院 正忠院 忠秀院 正殉院 忠勇院 義心院 献身院  
護國院 勤精院 大勇院 義勇院 敬忠院 忠良院 殉國院 誠忠院 武徳院 忠烈院  
義士 義勇 忠烈 殉邦 義徹 堅忠 勇譽 義光 忠譽 殉國 盡忠 忠義 勇哲  
誠忠 良勇 武相 義勇 誠忠 勇岳 道猛 一散 離塵 武嶽 大勇 義伸 義嶽  
勇彰 志信 博義 誠信 義水 忠嶽 了勇 義忠 義貴 顯忠 雄心 大忠 義範

## 【墓碑の寸法】

■調査中 ※軍規や軍人墓同士の比較（階級など）その他

## 【墓碑の材種】

安山岩、凝灰岩・花崗岩（外部調達）、コンクリート造

## 【碑の年代観】

戦没年月日≠墓碑の建立年代

■戦死して数年後、また、戦後しばらくしてから建立のケースあり

昭和20年代後半～30年代に建立された事例複数確認（紀年銘の有無）

（起因）死亡通知（戦死公報）、遺骨還送の遅延、陸海軍省の通牒ほか

「戦没者墓碑建設指導二関スル件」（昭和18年、陸軍省）

一、国家総力ヲ挙ゲテ戦力増強生産拡充ニ結集スベキ現時局下ニアリテハ墓碑建設ニ使用スル私財勞力ハ徹底的ニ節減スルヲ要スルコト

二、新墓碑建設ノモノニアリテハ現戦争間ハ努メテ質素ナル木碑ヲ以テ之ニ代フル如クスルコト

三、先祖代々ノ墓ニ合祀スルガ如キ風習アル地方ニ於テハ之ニ依ラシムルコト

注）昭和19年、海軍省も同様の通牒（「墓碑建設指導二関スル件」）

昭和20年代後半～30年代の墓碑建立の背景には、

≒サンフランシスコ平和条約（日本の独立回復）

≒戦傷病者戦没者遺族等援護法制定、旧軍人恩給復活

≒国を挙げた戦没者慰霊・遺族会活動の活発化



神風連の乱



西南戦争



日清戦争



日露戦争



日露戦争



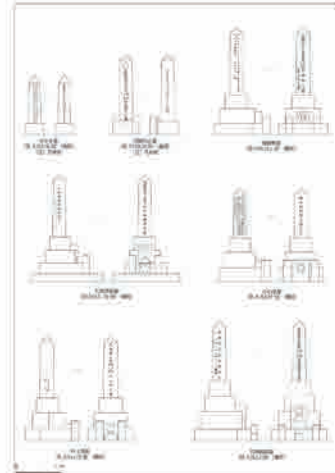
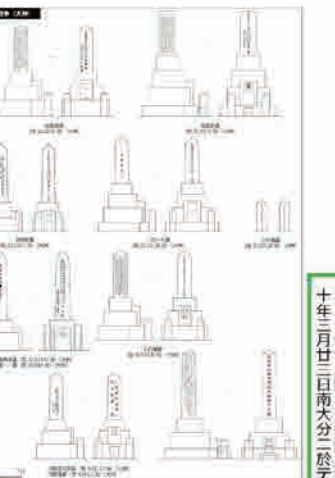
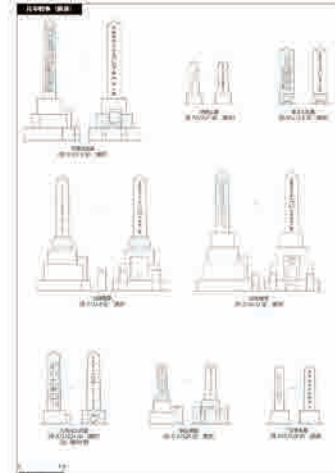
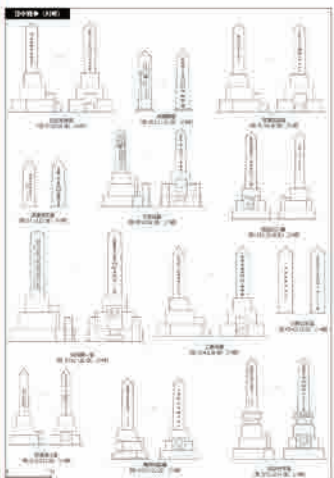
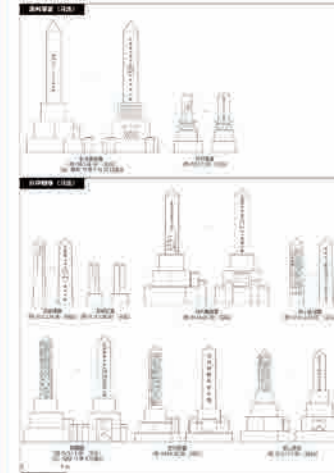
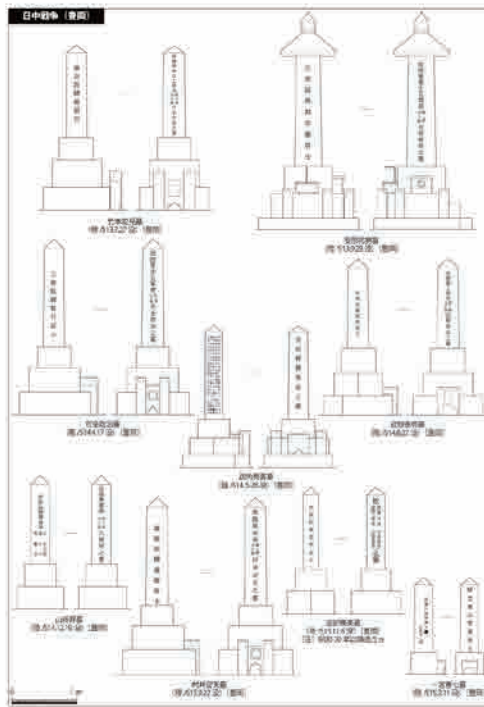
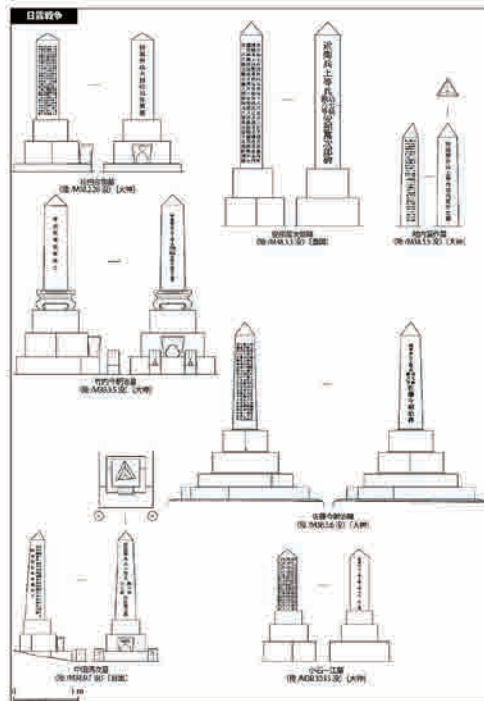
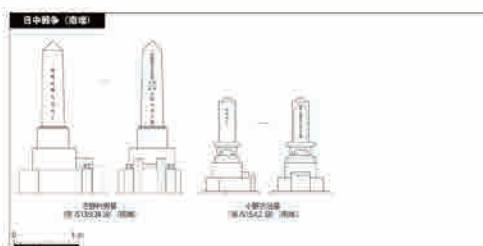
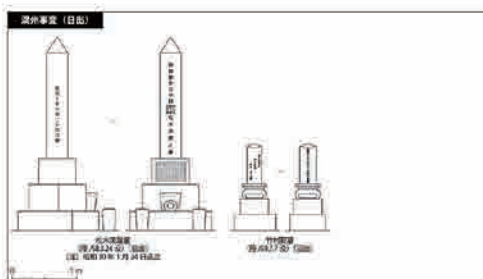
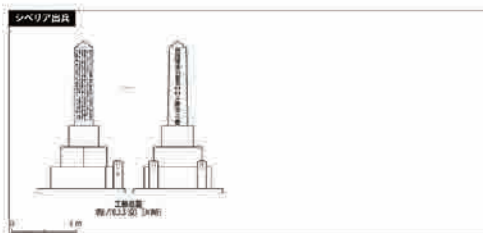
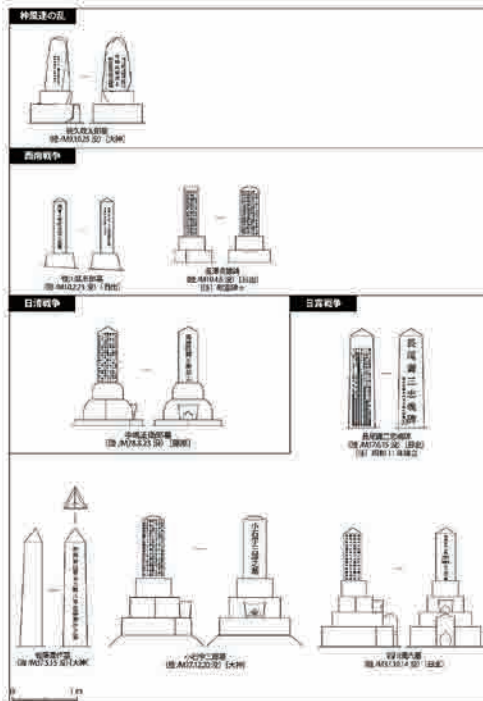
日露戦争



日露戦争

シベリア出兵



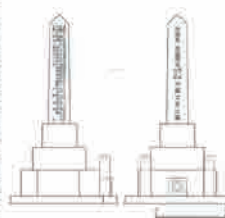


## 太平洋戦争の墓碑例

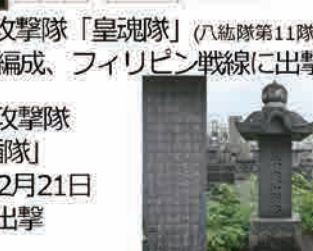
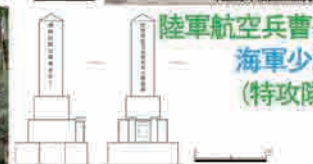
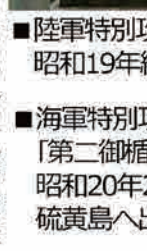
### 海軍二等機関兵

■航空母艦「飛龍」は、ミッドウェー海戦で米爆撃を受け沈没。

海軍志昭和十六年五月一日佐世保海兵團入團同年八月十五日飛龍乗組昭和十七年六月五日東太平洋方面於戦闘（機動部隊）戦死聯合艦隊司令長官叙勲八等功七級享年十八歳



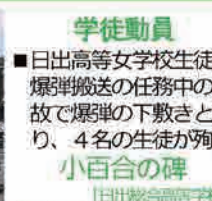
陸軍皇魂隊フィリピンガダルカナル島上空二テ昭和二十年七月三十日戦死行年二十一歳  
※台帳上は比島ルン島キヤンガン



■陸軍特別攻撃隊「皇魂隊」(八紘隊第11隊) 昭和19年編成、フィリピン戦線に出撃

■海軍特別攻撃隊「第二御楯隊」 昭和20年2月21日 硫黄島へ出撃

昭和十八年四月大分県立日出高等女学校入学、昭和二十年一月四日生徒動員令二ヨリ出動、昭和二十年三月廿三日南大分二於テ殉職、行年十七才



### 学徒動員

■日出高等女学校生徒が爆弾搬送の任務中の事故で爆弾の下敷きとなり、4名の生徒が殉職

### 小百合の碑

【日出総合高等学校】



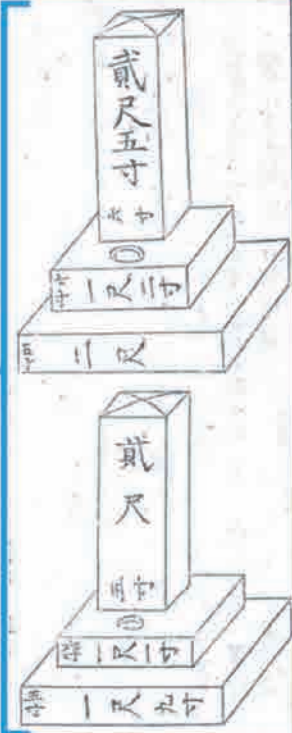
陸軍航空兵曹長 海軍少尉 (特攻隊)



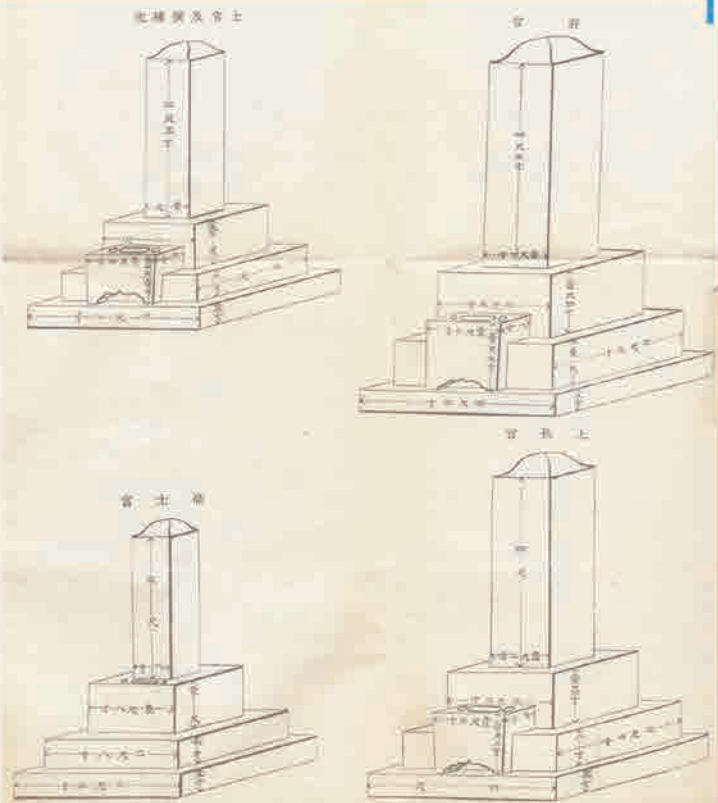
# 軍人墓の規則

- 『下士官兵卒埋葬法則』（明治7年）
- 『陸軍埋葬地ニ葬ルノ法則』
- 『陸軍隊附下士卒埋葬規則』（明治19年）
- 『海軍生徒下士卒傭夫死亡者取扱規則』（明治19年）
- 墓碑の初図示（尖頭四角柱）
- 『戦時海軍死亡者取扱規則』（明治28年）

- 『陸軍隊准士官下士卒埋葬規則』（明治27年）
- 『戦時陸軍埋葬規則』（明治27年）
- 『陸軍埋葬規則』（明治30年）
- その後も規則は大正・昭和にかけて制定（改正）
- 陸・海軍墓地への適用、郷里の墓地は？



卒	下士	准士官	士官及候補生	上長官	將官
高二尺	高二尺五寸	高三尺	高四尺	高四尺五寸	高五尺（地上以下同シ）
方五寸	方六寸	方七寸	方八寸	方九寸	方一尺



# 軍人墓のルーツ

- 尖頭四角柱の墓碑
- 故人の名を刻む墓碑
- 故人の顯彰を刻む墓碑
- 江戸時代に類例あり
- 故人の名と仏式戒名を併記する墓碑
- 江戸時代に類例あり
- ・戒名を刻む=檀信徒の証
- 旦那寺への配慮
- ≡仏教と異なる信仰・思想の存在
- 江戸時代の
- 儒教・神道の思想に源流



# 戦没者遺産は戦争遺産

## 軍人墓の現状

- 戦没者の数≠軍人墓の数
- ≡所在不明となりつつある軍人墓
- ≡整理が進められつつある軍人墓
- 例) 累代墓への合葬
- ・墓碑の解体（全解体 or 部分解体）
- ケース1：碑身のみ移設
- ケース2：碑身を寝かす
- ケース3：累代墓碑身に刻銘
- 累代墓墓誌に刻銘





# 戦没者の遺産は「戦争遺産」

戦争遺産の保存継承のため  
戦争と平和の考究のため

- ☞ 戦没者の遺産は、守り伝えていくべき歴史遺産
- ☞ 日出町には様々な戦争遺産が眠っている
- ☞ 広い視野、高い視座でみつめることで、  
様々な資料や遺跡の新発見・再発見  
そこに秘める歴史の新発見・再発見
- ☞ 行政・住民が手を携えた戦争遺産の保存継承
- ☞ 日出町民の目線で「戦争と平和」の学びの実践

【問合先】 日出町教育委員会社会教育課  
〒879-1506 大分県速見郡日出町 3891 番地 2  
文化財係（担当 中尾征司 松本 凌 梅野敏明）  
TEL0977-73-3222/FAX0977-72-8680